ブラジル　オレンジの搾汁は晩生品種に移行

Cepea　2024年10月2日

セペア（サンパウロ大学応用経済高等研究センター）、2024年10月2日 － サンパウロ州の果汁加工会社では、9月末時点で、2024/25年度産のオレンジの搾汁が順調に進んでいた。関係者らによると、品種別ではパールオレンジが最も多く加工された。ただし、収穫のペースは上がってきており、晩生の果実（バレンシア種やナタルオレンジなど）の入荷が増えている。

1番目の開花による果実の割合が高いため、収穫は通常よりも進んでいる。Fundecitrus（柑橘類栽培防衛財団）のデータによると、今シーズン生産されたオレンジの64%を1番目の開花の果実が占め、その後の4回の開花による果実（最大で36%）よりも多くなっている。したがって、今年は搾汁ペースが早期に減速する可能性が高い － Fundecitrusによると、2回目の開花による果実は10月以降に収穫される。

それに加えて、カンキツグリーニング病（HLB － 黄龍病）、平均以上の気温、及び乾燥した天候も収穫を加速させる。カンキツグリーニング病については、早期の落果が症状の一つであり、生産者は損失を避けるため早めに収穫を行うことがある。一方、気象条件は成熟を加速し、早期の落果をもたらす可能性がある。

加工における晩生の果実の割合は10月に高くなりそうであるが、果汁生産に割り当てられるパールオレンジの量も依然として関係する可能性がある。

在庫量 － 9月19日にCitrusBR（果汁業者の団体）が発表したデータに基づくセペアの計算によると、ブラジルのオレンジ果汁の在庫量は現在の収穫期間中（2024/25年度）には回復せず、今シーズンは技術的に在庫ゼロで終了する可能性がある。加工歩留まりの改善（平均以下の降雨量による）と輸出量が限られるという予測でさえ、加工用果実の数量の減少を補うのに十分ではない。

CitrusBRによると、2023/24年度末（2024年6月30日）の果汁在庫量は11万6,700トンで、前年同期より37.7%増加したが、それでも史上（1988/89年度以降）3番目に少なかった。

（関連記事）ブラジル　暑く乾燥した天候でオレンジ収穫量がさらに減少

Mintec　2024年10月2日

Fundecitrus（柑橘類栽培防衛財団）は9月10日、2024/25年度のブラジルの柑橘類収穫量に関する最新の予測を発表し、サンパウロ州とミナスジェライス州西南西部の柑橘類地帯（シトラスベルト）の生産量を5月の予測より7.1%少ない2億1,578万箱に修正した。これは、昨シーズンの3億722万箱から29.8%の減少となる。収穫量が少ないのは、高温で乾燥した条件によって、果実の小玉化と落果の増加が悪化したためである。2024年5月から8月の間のこの地域の降水量はわずか64mmで、過去の平均を54%下回っている。

暑さは、1番目と2番目の開花によるオレンジの大部分で成熟を加速させた。カンキツグリーニング病による損失を減らすために、生産者も収穫を早めに開始した。市場関係者はエクスパナ社（調査会社）に対し、ブラジルでの現地視察中に「カンキツグリーニング病の影響を受けた果樹がない園地は1つも見たことがない」と語った。同財団によると、8月中旬までに、前年同期の30%に対して果実の約45%が既に収穫された。

オレンジの収穫が進んだことで、ブラジル産オレンジ果汁は入手し易くなった。加工業者は果実を加工しているところであり、9月には需要と供給は均衡していたが、価格は歴史的な高止まりが続いている。EU向けブラジル産オレンジ果汁のエクスパナ社ベンチマーク価格（EBP）は、前年より55%高い7千ドル/トンである。市場筋は、2024/25年度シーズンが進むにつれて需要が供給を上回り、次のシーズンが始まる前にオレンジ果汁が不足する可能性があるとの懸念を表明している。市場関係者は、ヨーロッパの大手小売業者との過去に結んだ安価な契約が切れるため、スーパーマーケットでは値上がりが予想されると言う。